

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

それぞれの家庭と教会の 台としての自覚を高めて



婦人会夕張支部第46回総会 5月19日

貴方への手紙 (304)

6月24日おちばで前真柱様の五年祭が執り行われますので前号に続きます。

「教祖百三十年祭北海道教区決起の集い」平成28年9月2日は大行事でした。

前真柱様のご体調すぐれない中、ご無理を申し上げてご来道いただいたことは忘れぬありがたいことでした。

ご相談の際「北海道の一回が前真柱様にお声をかけて頂きたくお待ちしています。どうかお願いします」と申し上げるとしばらくお考えになった後、日帰りなら、と仰いました。

北海道におられる時間は5時間あまり、教務支庁に滞在される時間は2時間ほどに限定し実現に到ったのでした。

教務支庁には大テント。そこをくぐってご入場くださる前真柱様を迎える人々の笑顔の波。心底嬉しくてありがたすぎてしょうがないという顔です。子供になりきって万雷の拍手で迎える皆さん。その姿を見て、こんなにも北海道の

我々は待っていたのだと改めて感激したのでした。

お言葉では前年の東日本大震災と復興に言及され、真実さえ心におさまれば、案じは一つもいらんのおさしづを引用され我々の奮起を促されました。そのお言葉はとも力強く深く一同の心にしみ込みました。

「28年ぶりのこと」

今から28年前のこと。父亡き後、平成3年8月19日、東中央大でガラにもなく講話をさせて頂いた。翌日だったか本芝部内の恩師横堀先生を訪ねると私を本理世、本芝、東本へと連れて行った。

浅草を通るとき古いが風格のある建物に行列ができていた。「駒形どぜう」だった。浅草名物だ。私は父亡き後読んだ日記を思い出していた。父の東大時代。二代真柱様が東京の寄宿舎「さんさい寮」の寮生一同を駒形に連れて行ってくれた時のことが書いてあった。

その日「官長公大いに酔う」と。また痔の悪化から「酒を一滴も飲むあたわず」とかで「まことに残念」とある。「どじょうは酒と共に

食すべき哉」とうらめしそう。駒形のどぜう、江戸情緒とか、食べ方は小鍋に数匹のドジョウ、それに葱を隠れるほど乗せて煮る。そのやり方は数百年変わっていないとか。

私はその日記を思い出してここに違いない！ぜひ寄りたい！と思った。しかし自分は先生の運転する車に乗っている身だ。無理か？とあきらめたそのとき突如、運転している先生が「藤田君、どじょうでも食べようか？」と言った。どじょうを食べたことがない先生だがふと食べようと思つたらしい。なんと不思議なことかと驚きながら店に上がると鍋の大きさや食べ方などが日記の記述のままだった。1801年創業。江戸時代からの名店。さては父の魂が私をここへ引き寄せたか！と思えば万感胸に迫る。この年最大の喜びだった。

腹ごしらえをした後、先生は私を乗せて暗くなった東本大教会へ。それが初参拝だった。

以来28年ぶりのこと。先月は二度目の東本大教会参拝を果たした。そして久しぶりに駒形どぜうを頂いた。どぜうを食べると父の顔が浮かんだ。

「180頃思ひ出す」

さて思い出ばかり書きつらねたがこの頃いつも思っているのは「今、自分にできることは何か？」である。「今できることがあ

今後の予定

- 6月20日 婦人会・委員部長講習会
- 6月23日 ひなの会
- 6月30日 婦人会創立110周年会員決起の集い
- 7月26日 夕張国どもおちばがえり出発8/1
- 夕張大教会会場 13時より

る」のだ。
 そして自分を元気づけるために心に言い聞かしている。
 「自分ほどたすけてもらっている人間はいない」
 「生きている命を何かで恩返ししたい」
 心に唱えるのは、
 「南無天理王命!」「おやさま!」「父よ!母よ!」
 するといつも元気が湧いてくる。あなたもいかがですか?

(6月10日記)

五月月次祭の様様

北海道の一年の中で一番過ごしやすい五月、心地よい春風の中、草木や作物が芽吹いて色とりどりに育ちを見せる中、夕張のそれぞれの会でも活動が本格化し、行事の準備や会議にと忙しさを見せていた。

迎えた15日の祭典日も、暑くもなく寒くもなく、おつとめを勤めるには快適な気温であった。開扉献饌のち祭文奏上。続いて座りづとめ・十二下りが勤められ、鳴物の音と勇んだ参拝者の地歌の音が重なって、殿外まで響き渡っていた。

講話には2名が指名され、まず林たみ子・壽仁分教会長が壇上に上がり「壽仁分教会は昭和47年に布教所として開設されました。昭和58年に教会としてのお許しを戴き、初代の林信義は10年間会長として務めました。

初代は平成4年に出直し、初代の息子の妻である私が2代会長に就任致しました。名称の理を継ぐだけでなく、繋がる信者さん達にも責任がある立場です。大変な役目であると思いましたが、娘達は順々に理解し、私を支えてくれました。就職の前には修養科を志願し、また嫁ぎ先の家でも神祀りをしております。孫達も親に連れら



れて教会へ足を運ぶ内、おつとめが大好きになり、鳴物を練習して先月の少年会総会でも立派に太鼓を勤めてくれました。これからおてふりも覚えていつて欲しいと思っています。

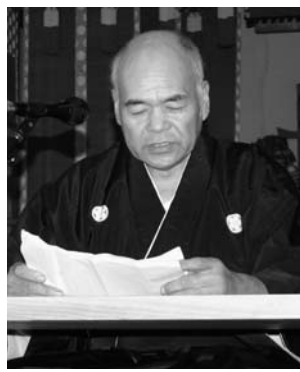
今の教会に移り住んでから24年間、私は谷合から流れる沢の手入れのひのきしんを続けてきました。去る平成28年夏の豪雨で南富良野町を中心とした地域に災害が起ったことは、記憶に新しいと思います。壽仁分教会でも、教会までの道路が崩れて寸断されました。朝、四女が車で出勤するとすぐに戻ってきて「道路の土が無くなっている」と言いました。急いで行くと、5メートル程すり鉢状に土が無くなり、車は通れなくなつて

いました。また土の下にあった水道管も破裂し、そこら中がドロドロになって、手の付けられない状態でした。

その内に出ていた水は止まって、土は乾きましたが、しかしこれだけ土の無くなった道路を私達だけではどうする事も出来ず、そのままの状態を冬を越しました。そんな中、町議会議員のある方が、教会までの道の補修を町で出来ないか、と議会で話題に出してくれました。

私が自分の水でない、自分の土地でない沢をひのきしんの心で手入れを続けていた事をご存じで、一刻も早く直すべきだ、と声を上げて下さいました。お陰で町が主導で工事が進み、元のように通れるようになりました。また費用も当初の見積もりよりも5分の1程で済み、大変有難い事でした。

会長になる前の事、トラクターでの作業中に機械に足を巻き込まれ、危うく切断するところでした。幸いその前に救助が駆け付け、また破傷風の心配もありましたが無事にご守護頂きました。この時に『しっかりこの道を歩むように』と神様から足におしるしを頂いた



ように思います。この事が今の私の務めに繋がっていると感じています。

次に堀江吉秋・石狩川分教会長が上がり「私は苫前町の漁師村で生まれ、その後北昭和村というところで中学1年生まで過ごしました。私の父は軍隊上がりで人に頭を下げる事の出来ない人で、色々な所で喧嘩をしては酒に溺れるような毎日を送っていました。

父は兄弟の中でも私を毛嫌いし、小学校もまともに通わせてくれませんでした。父が生きている間は辛い思いばかりでした。あり得ない事と思うでしょうが、父が出直したと聞いた時は、家族全員で両手を挙げて大喜びした程でした。

そんな酷い父でしたが、実は天理教の信仰を持っており、形はどうあれ、今も私が信仰を続けるきっかけになっていたように思います。不運にも学校での勉強をまともに出来なかつた私ですが、これからお道の教え、通り方を日々勉強して参りたいと思っております」と話した。



その後大教会長の挨拶があり「助けられて生きている、と思

ます。それぞれに命が危ない処を助けてもらった、という事があつたんだと思います。私はその助けでもらった事への恩返しのため、日々を通っております。

メジャーリーグの大谷選手は日々の感謝を忘れないそうです。それが今の大活躍を支えているんですね。我々も感謝と恩返しを忘れずに通る中に、陽気ぐらしへと繋がる道が見えてくるのではないのでしょうか」と述べられた。

こどもおちばがえりに参加しませんか?



- ★本年の夕張団の旅は7月26日大教会に集合、翌日飛行機で天理へ。帰りはフェリーで8月1日の夜、大教会解散となっております。まだまだ募集中です！
- ★料金は変動していますので、ご相談ください。
- ★LCC格安航空券を使っておちばから合流の方、また、おちば行事のみ参加希望の方、ぜひご連絡ください！

☎ 0126-22-1248 夕張大教会まで

婦人会夕張支部第46回総会
〜共に育とうとする心を
あつめて〜

抜けるような五月の青空が広がった19日、夕張支部総会が開催され、道内各地から詰め掛けた婦人会員が、おつとめ・総会式・感話などをつとめ、心に力をもらってにこやかな笑顔が広がった。

まず9時30分から、おつとめ着に身を包んだ会員は、年齢差はあるものの、勇んで十二下りをつとめ、御告辞を頂き、大教会長に代わって梶川卓一役員の祝辞を受けた。

感話には3名が立ち、まず祝梅の上杉良子さんが「九州男児で頑固な主人との間に4人の女の子を



授けて頂き、祝梅の前会長様より『徳を積みなさいよ』とひのきしんの大切さを教えてもらいました。24年前に主人は脳内出血で倒れましたが、後遺症もなく過ごせ、10年後に脳腫瘍を患いました。お陰でおつとめをしてくれるようになり、教会に運んでひのきしんを一緒にしてくれました。今は私の顔面麻痺も良くなり、ありがたいばかりです」と。

次に東苗穂の会長夫人、齊藤祐子さんが「昨年の夏から中一の娘が嘔吐恐怖症という身上になって、少しずつ成人させてもらっていま



す。私は天理教も嫁いできたから知ったので、教会つて何？という状態でした。おてふりも鳴物も、ゆつくり教えて頂いています。娘は神様のお話をすると落ち着いてくれますし、子ども達がそれを節にして信仰に向かってきてくれました。私もお願いづとめ、お礼づとめをして、娘のお陰で神様の事が分かり、喜び探しをして毎日を感謝して過ごしています」と。

最後は馬追委員部・竹田愛子さん。「私は天理高校に行き、早朝ひのきしんに出た際に、先輩が路傍講演をされたのを聞いて、内容は忘れましたがとても感動し心に沁みました。そこから教えに興味を持って歩んできました。何年か前から疲れるし、身体がだるい症状が出て、ネフローゼという腎臓の病気に罹りました。足がむくんで腫れて、象のような足になりました。まだ子どもが小さいのに1

か月も入院。また退院しても夜中に3・4回トイレに起きる状態、かなり辛かったです。実家の両親が上級にひのきしんによく出向いていました。その姿を真似て、皆さんに励まされながら、大教会のひのきしんをしたいと思います」と述べた。

その後、お弁当で昼食タイム。食堂のそこかしこに、勇んだ喜びの話の花が咲いていた。(参加者120名)

おちぼの風を感じながら
〜ひのきしん隊6月隊
2名参加中〜



今回、夕張分会からは2名の参加と、少し淋しい人数ですが、仲良く楽しくやっています。6月は本部の朝づとめの時間が早く、睡眠時間も少ないですが、眠い目を擦りながら毎日ひのきしんに励んでいます。

ひのきしんの内容は、やはり来月に控えたこともおちぼがえりの準備が多く、各お楽しみ行事のテントや足場の設営を行っています。それ以外にも田んぼの除草や畳の運搬、中には天理プールでのセアカゴケゲモの駆除など、多岐に亘っていて、毎日飽きる事があります。

中でも蛇谷という奈良県と三重県の県境にある山に入り、何百キロもある大きな丸太を、数人がかりで引つ張って崖から落とす作業があり、危険ですし体力も使いますが、みんなで力を合わせるとする作業はとても心地が良く、非常に楽しかったです。

班員は総勢17名で、今回は中津・南阿・西宮分会と同じ班でした。班内の雰囲気も良く、和気

満々としてやっています。特に楽しい瞬間が、夜食の時間です。それぞれの分会で当番を決めて、手作りの料理を囲んで酒を飲み交わすのが、最高の時間です。夕張は数日前に二人で「モツそば」を作った振舞いました。喜んでくれるか不安でしたが、大盛況で多めに作りましたが、完食してくれました。先日は班内感話での弁士に選ばれ、十分ほど話す機会を与えられ、普段言えないような自分の身の上についての話をすることが出来ました。すべての日課を全うするのは中々難しいですが、神様のお膝元で、ひのきしんや修練また団体生活をする中で、ひのきしん隊終了後の生活も勇んで過ごせるように、心と体を作っていくたいと思います。隊期はまだ半分残っていますが、体調を崩さないように気を付けて、二人仲良く頑張ります。

志加ノ谷分教会・岩佐祐太
梅伊達分教会・河本佳朗



訃報

八十梅分教会二代会長 佐々木百々子氏(享年91歳)



去る5月30日お出直しになられました八十梅・佐々木百々子姉の出直しを悼みます。姉は昭和50年

縁あって初代の佐々木源次郎氏と結ばれ、身上がちな会長を支え続けられました。平成5年に出直された後、その秋には推されて二代会長に就任。華奢なお姿ながら、しっかりと神様に凭れて歩まれる様子が、思い出されます。ここにご生前のご尽力に深甚の感謝を申し上げ、哀悼の言葉いたします。長い間ありがとうございました。

北海道音楽大行進へ 鼓笛合同隊参加

6月8日、旭川市にて本年も『北海道音楽大行進』が開催され、昨年に続き夕張団鼓笛隊も天理教の合同隊でパレード演奏した。

『北海道音楽大行進』は今年で87回を数える伝統ある音楽祭。天理教の合同隊『天理ニコニコドリムバンド』(北森吉郎隊長・高臺分教会)は旭川支部、天龍支部、夕張団など大人、子供合わせて60名程がエントリーし、昨年より参加者が20名ほど増え、(海外の方も参加)今年も隊としてより厚みが増した。

夕張団からは少年会員6名、育成会員9名、引率手伝い観覧など12名が参加した。

当日9時30分にマイクロバス、ワゴン車2台で大教会を出発し、北愛分教会に合同隊全体が集合。北森隊長が「パレード出演するにあたって、楽しく演奏するとい



事と、元氣よく演奏するという事をテーマに『楽しいなあ』と、『いよっしゃー!』という二つの掛け声を号令にします。がんばりましょう。との号令練習から始まり、各パートで自己紹介と打ち合わせの後、30分程合奏練習をした。出演順番の時間に合わせ集合場所の河川敷で待機後、スタート地点の常磐ロータリーへ移動し、いよいよ演奏開始を待った。爽やかなお天気の中、ドラムメジャーの掛け声を合図に、ポンポン隊を先



頭に行進がスタート。無邪気で一生懸命に手足を振る動きに沿道から優しい声援がかけられた。隊員はニコニコと元気に観客を笑顔にしながら行進し、買物公園北をかすめスタルヒン通りから永隆橋通を駅方面へ向かい、1.4キロのロングコースを「大好きなおちばへ」と「風になりたい」2曲を演奏した。

ゴール地点に着き大きな拍手が送られると、にわか雨が降り始め、バスに乗車する頃には大粒の雨となったが、18時頃無事大教会に到着、充実の一日を終え解散となった。

以下は隊員の感想です。

伊藤 勇太(祝 梅)

「音楽大行進について、話を聞いたとき僕はあまり乗り気ではなかった。だけど、結果としてはいつてよかったと思える。他の隊と一緒に頑張って同じ曲を演奏する。



メジャーが指揮をとり全員がゴールへ向かって進んでいく。見知らぬ人と一緒になって何かをする事は僕の日常ではほとんどない。貴重な体験ができ、有意義な一日になったと思う。」

和泉 結夢(善進道)

「最初はだいききなおちばへを踊った。上手に踊れた。楽しかったし疲れた。ごほうびのおやつが嬉しかった。」

庶務部 5月

▽修養科936期新入生

西尾 仙貴(幌 向) 4・1

※4月号に未掲載でした。

申し訳ございません。

▽教人資格検定講習・中期受講

高橋 和志(祝 梅) 5・1〜6

▽三日講習会II受講

山崎 親吾(東春山) 5・17〜19

▽新任教会長研修会受講 5・27〜28
岩佐 善昭(志加ノ谷)

大教会日誌抄 5月

- 1日 たすけ推進会議
- 3日 会長夫人、婦人会決起の集い(教務支庁)へ
- 14日 祭典準備 月例会議
- 15日 月次祭
- 17日 会長、兵庫へ
- 18日 会長、
- 19日 社大教会長就任奉告祭 婦人会夕張支部総会 会長、関東
- 24日 会長、本部神殿当番 会長夫人、おちばへ
- 26日 本部月次祭 通拝式
- 29日 会長夫妻、帰会
- 31日 たすけ推進会議 会長夫人、八十梅二代会長 みたまうつしへ

- 齊藤 智明(南 幌)
- ▽女子青年委員長講習会 5・18〜19
- 高橋都志子(祝 梅)
- ▽お運び(教会移転)
- 美榮分教会 5・26
- ▽ひのきしん
- ・本部食堂
- 藤田 亮平(幌 都) 5・16〜31
- ・詰所炊事
- 菅沼 節子(東春山) 5・8〜26
- 山根ふじの(善進道) 5・24〜26
- ・詰所清掃
- 矢野 宏信(富 陽) 5・19
- 矢野 明子(富 陽) 5・19